



## エコビジョン2050の策定

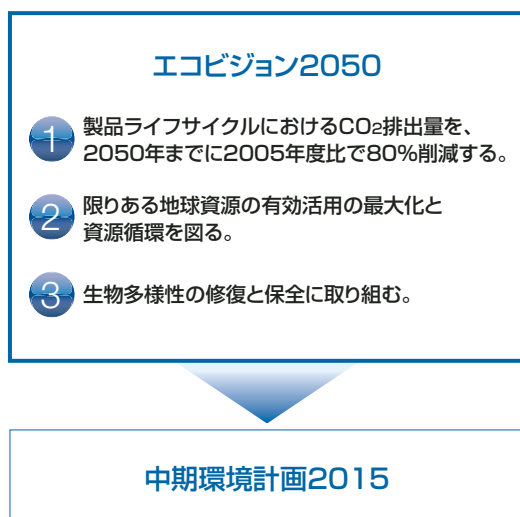
### エコビジョン2050

#### 持続可能な地球・社会の実現を目指して「エコビジョン2050」を策定

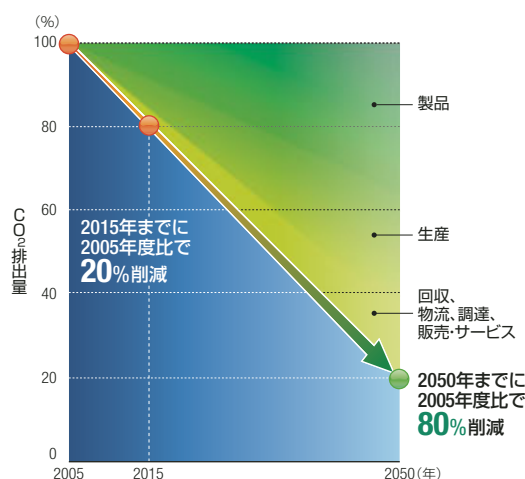
2009年1月、コニカミノルタは2050年をターゲットとする長期環境ビジョン「エコビジョン2050」を新たに策定しました。このビジョンは、持続可能な地球・社会の実現に貢献し、グローバル企業としての責任を果たしていくために、コニカミノルタが今後、目指していく方向を示したものです。

また、「エコビジョン2050」の実現に向けたマイルストーンとして、2015年度をターゲットとする「中期環境計画2015」を策定しました。

※ 中期環境計画2015(→P8)



#### CO<sub>2</sub>排出量削減のイメージ



#### CO<sub>2</sub>排出量の目標設定の考え方

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の発表によれば、2004年の温室効果ガス排出量は490億t-CO<sub>2</sub>であり、人口64億人で割ると、年間一人当たり7.66t-CO<sub>2</sub>となります。一方、地球が許容できる温室効果ガスの自然吸収量は114億t-CO<sub>2</sub>といわれており、これを2050年の予測人口92億人で割ると、年間一人当たり1.24t-CO<sub>2</sub>となります。これは、現状の年間一人当たり排出量の約80%減に相当します。

「エコビジョン2050」では、これを根拠の一つとして、「2050年に2005年比で製品ライフサイクルでのCO<sub>2</sub>排出量80%削減」という目標を設定しました。

また、「中期環境計画2015」では、この目標からのバックカスティング※により、「2015年度までに20%削減」という目標を設定しています。

※ バックカスティング：将来のあるべき姿、ゴールを描いて、そのゴールから現在までを振り返って、今後取るべき行動を明らかにする考え方。



# 環境マネジメント

## 環境方針

会社運営のすべての面で、人と環境に調和した企業活動を進めます。

コニカミノルタは、環境、経済、社会の観点を企業戦略に融合し、会社運営のすべての面で人と環境に調和した企業活動を進めることを「環境方針」としています。その基本姿勢として「信頼性あるデータの確保と効果・影響の定量的な測定に基づき、環境課題の着実な解決に繋げることを掲げています。

こうした方針、姿勢のもと、製品・サービスの全ライフサイクルにわたって環境負荷の低減に取り組んでいます。なかでも、「地球温暖化防止」「循環型社会への対応」「化学物質リスクの低減」を重点項目としています。

さらに「生物多様性への対応」についても、事業活動が生態系に及ぼす影響を評価するとともに、具体的な対応についての検討を進めています。

### コニカミノルタ環境方針

私たちコニカミノルタグループは、持続可能な発展と利益ある成長を目指し、環境・経済・社会の観点を企業戦略に融合することで、会社運営のすべての面で人と環境に調和した企業活動を進めます。

私たちは、「信頼性あるデータの確保と効果・影響の定量的な測定に基づき、環境課題の着実な解決に繋げることを取り組みの基本姿勢とします。

#### 「一測定なくしてコントロールなし」

##### 1. 地球市民として持続可能な社会を目指して

私たちは、持続可能な社会に対応するため、環境保全、経済成長、社会性(倫理性)のパフォーマンスの継続的改善の観点をもって、事業活動を行います。私たち一人一人は、地球規模の環境・経済・社会に対して知識を深め、見識を持ち、持続可能な社会を目指して責任ある行動を行います。

##### 2. 法的及びその他の要求事項の遵守

私たちは、国内外の法的要求事項及び社内基準を遵守します。また、事業を取り巻く利害関係者の要求や、国際社会における合意に対しても公正に対応します。

##### 3. 製品・サービスの全ライフサイクルにわたる環境への配慮

私たちは、製品に対する責任はメーカーにあるとの認識をもち、製品・サービスの全ライフサイクルにわたる環境への配慮により、環境負荷の低減に努めます。

##### 4. 地球温暖化防止への取り組み

私たちは、地球温暖化が地球共通の重要課題であることを認識し、製品・サービスのライフサイクルの観点をもって、グループのあらゆる事業活動に由来する温室効果ガス排出量の継続的削減を行います。

##### 5. 循環型社会への対応

私たちは、循環型社会の形成の為に企業としてのできる対応策を常に見直し、資源使用を最小化するとともに、ゼロエミッション活動を積極的に推進・継続します。また、使用済み製品や包装材料などの回収・再資源化を加速度的にすすめます。

##### 6. 化学物質による汚染の予防及び環境リスクの低減

私たちは、化学物質が健康・安全・環境へ多大な影響を有することを認識し、化学物質の汚染の予防を図ります。また、環境へのリスクを低減するために、化学物質の使用量抑制と排出量削減を継続して行います。

##### 7. 情報公開の推進

私たちは、事業を取り巻く利害関係者に対して情報開示及びリスクコミュニケーションを積極的に行い、説明責任を果たすとともに、社会との共生に努めます。本方針は社外に対し公開します。

##### 8. 環境目的、目標の設定

私たちは、本方針を実現するために環境目的、目標、マネジメントプログラムを設定・運用し継続的な改善を図ります。

2009年4月1日  
コニカミノルタホールディングス株式会社  
代表執行役社長

松崎正年



## 環境マネジメント

### 環境マネジメントシステム

ISO14001に基づいたマネジメントシステムの運営を進めています。

環境経営をグループ全体で効率的に推進していくために、ISO14001に基づいたマネジメントシステムを運営しており、全世界の生産拠点でのISO14001認証取得を基本方針としています。

また、さまざまな環境課題に対して製品ライフサイクルの全段階で取り組むためには、生産拠点はもちろん、開発、販売、管理部門も含めたすべての拠点の環境活動を統一されたシステムのもとで運営し、効率的に連携していくことが必要だと考えています。この考えに基づき、グループの環境経営の要として、日本国内のすべてのグループ会社でISO14001のグループ統合認証を取得しています。

活動を進めるにあたっては、数値目標を設定し、定期的に達成度を評価して結果を各拠点にフィードバックすることで、継続的な改善を図っています。

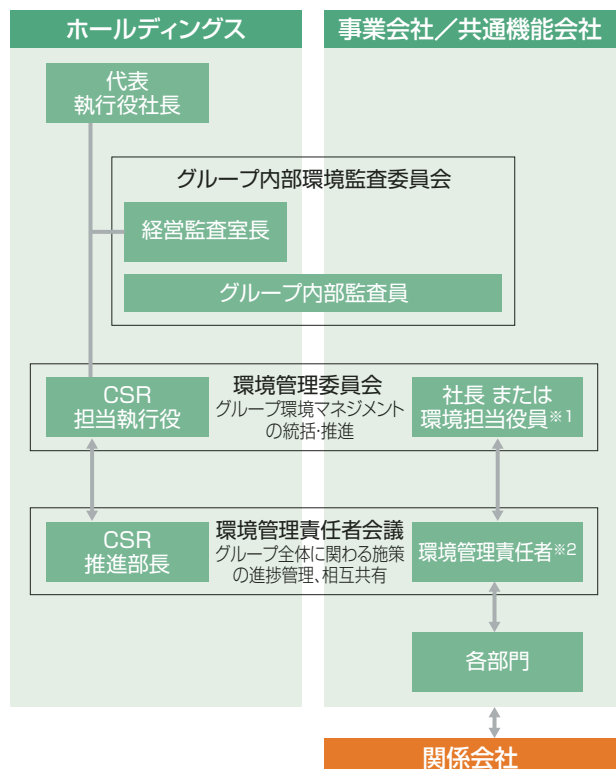
### 推進体制

「CSR担当執行役」が、環境マネジメント全体を統括しています。

コニカミノルタホールディングス(株)(以下、ホールディングス)では、グループ全体の環境に関する責任と権限を担う「CSR担当執行役」を置いています。一方、各事業会社、共通機能会社では、各社の事業活動における環境に関する責任と権限を担う「環境担当役員」を置いています。

また、グループ全体に関わる環境マネジメントを統括、推進する機関として、CSR担当執行役を委員長、各社の社長または環境担当役員を委員とする「環境管理委員会」を設置しています。環境管理委員会では、グループ全体の環境方針や中期環境計画を策定するとともに、グループ各社の環境に関する課題や取り組みを共有しています。各社の社長または環境担当役員は、各社に持ち帰り、具体的な取り組みへとつなげています。

グループ環境マネジメント体制



※1 各社の環境マネジメントを統括、推進。  
 ※2 各社の環境活動の実践と管理。



## 環境マネジメント

### 環境監査

グループ内部の環境監査については、ホールディングスの経営監査室長を委員長とする「グループ内部環境監査委員会」が、環境監査全般にわたる指揮命令を担っています。

年1回以上実施している内部環境監査でマネジメントシステムの運営状況を確認するほか、順法性の監査も実施することで、グループすべての組織において順法を確実なものにしています。

### 環境順法体制

**順法体制の強化を図るとともに、将来の法規制にも備えます。**

環境意識の世界的な高まりを背景に、各国・各地域において環境法規制の整備が進んでいます。従来の環境汚染防止の強化・見直しだけでなく、法規制の対象は、広く環境保全全体に拡大しつつあります。順法に関わる事業上のリスクを排除するためには、既存法規の順守はもとより、将来規制に対しても万全な事前準備が必要です。

こうした法規制を正しく把握し、順守していくため、コニカミノルタは、「順法診断」による順法体制の強化を図っています。2009年度に導入した中国の生産会社を皮切りに、2010年度にはワールドワイドに展開していく予定です。

また、各国・各地域における法規動向の監視体制を強化しています。日本・中国・欧州・米国の4極に置いた専門組織と、それぞれが管轄する生産拠点との間で、双方向の情報交換できる体制を構築しています。